口頭発表Ｂ⑧

徳島大学生の学外研修における学び
―全国の学生対象ワークショップへの参加を通して―

野中 亮[1)]、光宗 榮[2)]、浦邊研太郎[1)]、吉田 博[3)]
１）徳島大学工学部　２）徳島大学総合科学部　３）徳島大学大学開放実践センター

1. はじめに

我が国の高等教育において、学生の参画を得たＦＤや学生支援活動が広がりつつある。徳島大学においても、2011 年 9 月 28 日に大学教育委員会で承認された「徳島大学ＦＤの定義 [1)]」の中で、ＦＤに学生の参画を得ることが明記されている。また、大学教育や学生支援をテーマとした学生対象のワークショップも開催されており、年々参加者が増えているという現状がある。このような背景のもと、一部の徳島大学生の中でも大学教育や学生支援に対する関心が高まり、上述したようなワークショップに参加している。学外のワークショップに参加した学生が身につけたスキルや態度、また参加後の活動報告もされており [2)3)]、参加することの意義は明らかにされているといえよう。2011 年度も、愛媛大学で開催された「四国キャンパス元気プロジェクト 2011」、立命館大学で開催された「学生ＦＤサミット 2011・夏」、岡山大学で開催された「i*See2011」に延べ 18 名の徳島大学生が参加した。徳島大学では、これらのワークショップに参加する学生のために、旅費などの資金的な援助を行っており、このような支援も学生のさらなるスキルアップ、意識向上に寄与しているといえよう。そこで、本発表は支援を受けて学外のワークショップに参加した学生が、ワークショップへの参加を通して学んだことを報告し、支援に対する成果を明らかにする。

2. 四国キャンパス元気プロジェクト 2011

2011 年 8 月 25・26 日に愛媛大学で開催された「SPOD フォーラム 2011」の中のプログラム「四国キャンパス元気プロジェクト 2011」が開催され、四国の大学・高専から 26 名の学生が参加した。このうち、徳島大学からは、司会・話題提供者として 3 名、参加者として 5 名の学生が参加した。本ワークショップの目的は「学生を成長させる研修プログラムを作成する」ことであり、それぞれ同じ大学・高専の学生が 5 人一組となってプログラムの作成を行った。徳島大学生は、学生向けの中長期研修プログラム「ユニオン」を作成した。徳島大学生は他大学の学生や教職員から、自分たちの作成したプログラムに対するフィードバックを積極的に受け、より実現可能なプログラムへと改良を加えていた。また、SPOD フォーラムの参加教職員とも積極的に交流し、自分たちの活動内容を紹介していた。今後は、本ワークショップで培った繋がりを徳島大学内での活動に活かし、作成した研修プログラムの実現を目指す予定である。

3. 学生ＦＤサミット 2011・夏

2011 年 8 月 27 日・28 日に立命館大学で「学生ＦＤサミット 2011・夏」が開催され、全国から 271 名の学生・教職員が参加した。このうち、徳島大学からは、学生 6 名が参加した。まず「どうして大学に来ているの」というテーマで議論が行われ、次に授業や課外活動などの 3 テーマに分かれて、2 日間にわたるグループワークを開始した。ワークにおいて徳島大学生は自大学の事例として「繋ぎ create」や「Ways!」の活動を挙げながら話を進め、大学教育の課題に対する解決策を話し合った。2 日目は「あんたの悩み解決したろかＳＰ」という企画が行われた。これは学生ＦＤ活動に関する参加者のさまざまな悩みに対し、参加者が応えるというものであり、徳島大学生もこれまでの経験を活かしアドバイスを行った。その後グループワークの続きや、グループ別発表が行われ、各グループでの議論の様子などが発表された。

4. i*See2011

2011 年 9 月 10 日･11 日に岡山大学において「i*See2011」が開催され、全国から、104 名の学生・教職員が参加した。このうち、徳島大学からは学生４名が参加した。本ワークショップの目的は「大学生活を今まで以上に充実させ有意義なものにする」ことであり、テーマとして「大学生活を充実させるために」を掲げている。1 日目は自身の大学生活を見直したり、大学生活を充実させるためには、何を一番大切にすればよいかについて、参加者全員が考えを述べ、意見交換を行った。2 日目は「大学生活を充実させるために大学に望むこと」をテーマとして 13 グループに分かれてグループワークを行い、「大学に望むこと」という形でまとめた。最後に、報告会で各グループの代表者が発表し、全体で共有した。代表者の中には徳島大学生も選出されていた。

5. 考察

以上のことから、徳島大学生が積極的に他大学の学生や教職員と交流し、学ぼうとしていたことが伺える。さらに参加学生が提出した出張報告書によると、「熱い思いを抱いた学生や教員とコミュニケーションをとることで、私自身も非常に良い刺激を受けました」という意見がみられた。このことから、これまでは主に徳島大学のみで活動していた学生が、他大学の学生・教職員との交流や研修を通じて大きな刺激を受け、意識の向上に繋がっていることがわかる。次に「今回学んだことを徳島大学に持ち帰り、徳島大学のＦＤ活動が活発化するよう頑張りたくおもいます」という意見からは、研修後、徳島大学において自身の所属するチームの活動や学内のＦＤ活動に、研修での経験を活かそうとしていることがわかる。また、他大学の学生･教職員との交流は研修中だけでなく、研修終了後も SNS などを利用しながらお互いに情報共有を行い、交流は継続している。そして、2011 年 11 月 3 日に徳島大学で開催された「キャンパス・ビジョン」の学外からの参加に繋がっている。これらのことから、他大学での研修に参加することは、徳島大学におけるＦＤ活動、学生支援活動の質向上のための一躍を担っているといえるのではないだろうか。

参考文献・資料

1)徳島大学ＦＤの定義：徳島大学大学教育委員会 http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/article/0000657.html (2011.11.15)

2)吉田 博：徳島大学生の生課外活動における学び，平成 23 年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集，32-33，2011

3)浦邊研太郎，光宗 榮，福島沙奈，吉田 博：学生による徳大生の正課外活動支援，平成 23 年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集，34-35，2011

図 1 四国キャンパス元気プロジェクト 2011 の様子

図 2　学生ＦＤサミット 2011・夏の様子

図 3　i*see2011 の様子